

「(仮称)銚子沖洋上風力発電事業計画段階環境配慮書」に対する環境大臣意見

本事業は、東京電力ホールディングス株式会社が、千葉県銚子市沖の海域において、最大で総出力 370,000kW の洋上風力発電所を設置するものである。

本事業は、再生可能エネルギーの導入・普及に資するものであり、地球温暖化対策の観点からは望ましいものである。

一方、本事業の事業実施想定区域(以下「想定区域」という。)及びその周辺は、海鳥が多く飛来しており、ウミスズメ、ヒメウ等の希少種も確認されていることから、これら鳥類への影響が懸念される。

また、想定区域の一部及びその周辺は、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」(平成 28 年 4 月環境省)に選定されており、本事業の実施により、海生生物への影響が懸念される。

したがって、本事業の更なる検討に当たっては、以下の措置を適切に講じられたい。また、それらの検討の経緯及び内容については、方法書以降の図書に適切に記載されたい。

1. 総論

(1) 対象事業実施区域の設定

対象事業実施区域の設定並びに風力発電設備及び附帯設備(以下「風力発電設備等」という。)の構造・配置又は位置・規模(以下「配置等」という。)の検討においては、現地確認を含めた必要な情報の収集・把握を適切に行い、計画段階配慮事項に係る環境影響の重大性の程度を整理し、反映させること。

(2) 関係機関等との連携及び住民への説明

本事業計画の今後の検討に当たっては、関係機関と協議・調整を十分に行い、方法書以降の環境影響評価手続を実施すること。また、住民等の関係者に対し丁寧かつ十分な説明を行うこと。

(3) 累積的な影響

想定区域の周辺においては、他事業者による複数の風力発電所が稼働中であることから、これらの風力発電設備等による累積的な影響が懸念される。このため、既存の風力発電設備等に対するこれまでの調査等から明らかになっている情報の収集及び他事業者との情報交換等に努め、本事業との累積的な影響について、調査、予測及び評価を行うこと。

(4) 環境保全措置の検討

環境保全措置の検討に当たっては、環境影響の回避・低減を優先的に検討し、代償措置を優先的に検討することがないようにすること。

(5) 最新の知見の反映

基礎を含む風力発電設備等の構造物の存在並びに工事中及び供用中の水中音の発生による海生生物等への影響を含め、洋上風力発電事業の環境影響については十分に解明されていない点があることから、本事業の実施の検討に当たって、最新の知見及び先行事例の知見の収集に努めること。

2 . 各論

(1) 風車の影に係る影響

想定区域の周辺には、多数の住居及び学校その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設(以下「住居等」という。)が存在しており、沿岸付近の住居等の近隣に風力発電設備が設置される場合には、供用時における風車の影による生活環境への影響が懸念される。このため、風力発電設備の配置等の検討に当たっては、住居等への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備を住居等から離隔すること等により、風車の影による生活環境への影響を回避又は極力低減すること。

(2) 鳥類に対する影響

想定区域及びその周辺は、海鳥が多く飛来しており、ウミスズメ、ヒメウ等の希少種も確認されていることから、本事業の実施により、風力発電設備への衝突事故及び移動経路の阻害等によるこれら鳥類への影響が懸念される。このため、風力発電設備の配置等の検討に当たっては、専門家等からの助言を踏まえた鳥類に対する適切な調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、環境保全措置を講ずることにより、鳥類への影響を回避又は極力低減すること。

(3) 海生生物に対する影響

想定区域の一部及びその周辺は、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」に選定されており、本事業の実施により、海生生物への影響が懸念される。このため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、沿岸域の浅場等の海生生物の生息及び生育基盤として重要な自然環境のまとまりが存在する区域を明らかにした上で、水の濁り等による海生生物への影響について、専門家等の助言を踏まえ、適切な調査、予測及び評価を行うこと。また、その結果を踏まえ、工事中における水の濁り等により、沿岸域の浅場等の海生生物の生息・生育環境への影響が懸念される場合は、環境保全措置を講ずること。

(4) 景観に対する影響

想定区域の周辺は、自然公園法(昭和32年法律第161号)に基づき水郷筑波国定公園に指定されており、同国定公園内には「天王台園地」及び「犬若屏風ヶ浦線道路(歩道)」等の主要な眺望点が存在している。また、同区域の周辺には、「飯岡

刑部岬展望館」等の眺望点が存在していることから、本事業の実施により、これら主要な眺望点及び利用施設からの眺望景観への影響が懸念される。このため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、現地調査により主要な眺望点からの眺望の特性、利用状況等を把握した上で、フォトモンタージュ等を作成し、垂直見込角、主要な眺望方向及び水平視野も考慮した客観的な予測及び評価を行い、その結果も踏まえ、眺望景観への影響を回避又は極力低減すること。また、事業計画の具体化並びに調査、予測及び評価に当たっては、専門家等からの助言並びに国定公園の管理者、主要な眺望点及び利用施設の管理者及び関係機関、地域住民及び関係地方公共団体等の意見を踏まえること。